国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

(注)　解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法　規　１２問　　３０分

法　　規

〔1〕　無線局の免許状に記載される事項に該当しないものはどれか。次のうちから選べ。

1　無線設備の設置場所
2　無線局の目的
3　空中線の型式及び構成
4　通信の相手方及び通信事項

〔2〕　総務大臣が無線従事者の免許を与えないことができる者は、無線従事者の免許を取り消され、取消しの日からどれほどの期間を経過しないものか。次のうちから選べ。

1　1年
2　3年
3　2年
4　5年

〔3〕　無線従事者が電波法又は電波法に基づく命令に違反したときに総務大臣から受けることがある処分はどれか。次のうちから選べ。

1　その業務に従事する無線局の運用の停止
2　無線従事者の免許の取消し
3　期間を定めて行う無線設備の操作範囲の制限
4　6箇月間の業務の従事の停止

〔4〕　無線局の臨時検査(電波法第７３条第５項の検査)において検査されることがあるものはどれか。次のうちから選べ。

1　無線従事者の知識及び技能
2　無線従事者の勤務状況
3　無線従事者の資格及び員数
4　無線従事者の住所及び氏名

〔5〕　無線局の免許がその効力を失ったときは、免許人であった者は、その免許状をどうしなければならないか。次のうちから選べ。

1　直ちに廃棄する。
2　1箇月以内に総務大臣に返納する。
3　3箇月以内に総務大臣に返納する。
4　2年間保管する。

〔6〕　無線局の免許人は、主任無線従事者を選任し、又は解任したときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

1　3箇月以内にその旨を総務大臣に報告する。
2　1箇月以内にその旨を総務大臣に届け出る。
3　2週間以内にその旨を総務大臣に報告する。
4　遅滞なく、その旨を総務大臣に届け出る。

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

法　　規

〔7〕　無線局が、無線設備の機器の試験又は調整を行うために運用するときに、なるべく使用しなければならないものはどれか。次のうちから選べ。

1　擬似空中線回路
2　水晶発振回路
3　高調波除去装置
4　空中線電力の低下装置

〔8〕　一般通信方法における無線通信の原則として無線局運用規則に定める事項に該当するものはどれか。次のうちから選べ。

1　無線通信における通報の送信は、試験電波を発射した後でなければ行ってはならない。
2　無線通信は、長時間継続して行ってはならない。
3　無線通信を行う場合においては、略符号以外の用語を使用してはならない。
4　必要のない無線通信は、これを行ってはならない。

〔9〕　非常通信の取扱いを開始した後、有線通信の状態が復旧した場合は、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

1　なるべくその取扱いを停止する。
2　速やかにその取扱いを停止する。
3　非常の事態に応じて適当な措置をとる。
4　現に有する通報を送信した後、その取扱いを停止する。

〔10〕　和文のモールス無線通信において、「$\overline{\text{ラタ}}$」を使用するのはどの場合か。次のうちから選べ。

1　通信が終了したとき。
2　周波数の変更を完了したとき。
3　通報の送信を終わるとき。
4　通報がないことを通知しようとするとき。

〔11〕　モールス無線通信において、応答に際して直ちに通報を受信しようとするときに応答事項の次に送信する略符号はどれか。次のうちから選べ。

1　R
2　K
3　OK
4　RPT

〔12〕　次の記述は、秘密の保護について述べたものである。電波法の規定に照らし、［　　］内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、［　　］を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。

1　特定の相手方に対して行われる無線通信
2　総務省令で定める周波数により行われる無線通信
3　特定の相手方に対して暗語により行われる無線通信
4　総務省令で定める周波数を使用して行われる暗語による無線通信